

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名

瑞穂市立南小学校自主研修会

テーマ

みんなが幸せになるための働き方

取組のポイント・成果

【①令和3年8月6日（金）】

オンライン講演会「学校における働き方改革—何のために、何から、どのように取り組むか」
 信州大学 教職支援センター 准教授 荒井英治郎氏

「なぜ学校は変わらないのか？」という視点で、個、組織、そして業界全体としての課題点に基づき、「一生続けられる仕事」「30年後も持続可能なシステム」として再構築するために、贅肉をそぎ落として「筋肉」を付けること、時間をかけずに成果を上げることなどについて、具体的に学ぶことができた。業務改善や効業務改善や効率化に前向きに取り組む文化を育む必要性を強く感じた。



<参加者の感想>

- ・週時程の工夫、教科担任制も取り入れているが、早く帰ればよい、「帰らされている」という意識ではよくないので「漢方的」な方法も行ってダメだったら戻せばよい。
- ・変わる時に人は抵抗感が強いが、変えることで勤務の仕方や考え方にも変化が訪れる。何が大切なのかを職員同士話し合うことが必要だと感じた。



【②令和3年9月3日（金）】

オンライン講演会「先生が忙しすぎる」をあくまめない—働き方をみつめなおす理由と方法
 教育研究家 合同会社ライフ&ワーク代表 NPO 法人まちと学校のみらい理事 妹尾昌俊氏

長時間労働に関する諸データや、企業や自治体の具体的な取組事例、書籍などを基に、働き方改革が必要な理由、多忙の要因や背景、教育活動の目的について学んだり、チャットで意見交流をしたりしながら考えた。今後それぞれが目指したいこと、取り組みたいことを明確にすることができた。



<参加者の感想>

- ・関わる人々の目標を共有できる職場にしていきたい。
- ・とにかく声かけと情報共有。校内に限らず他校とも様々な事をシェアしたい。
- ・当たり前前に疑問を感じられる視点をもち続けたい。



今後の課題

- ・今回、2回ともオンラインで講演会を行った。チャット機能やブレイクアウトルームを使うことで、参加者同士の交流を行ったが、時間内で効果的に学びを深めるために、諸機能をより効果的に使ったり、事前事後のアンケートを行ったりしていけるとよいと感じた。
- ・働き方について課題感を持っている教職員が多数だと思われるが、個の問題になってしまいがちである。また、メディアやSNSなどから情報は入ってくるが、ふと自分の足元を見た時に、何が問題でどう改善していけばよいのか、分からないまま時間が経っているという現状がある。組織として働き方について共に学び、対話し、働き方改革の目的について共通理解する時間がどの学校にも必要だと考えている。より具体的な実践を学び、現場でのアクションに繋げていく方法を考えていきたい。